

# 令和3年度内部監査（定期監査）結果について

## 1 監査日時

令和3年10月25日（月）10:00～10月28日（木）12:00

## 2 監査項目

- ①科学研究費補助金監査（公的研究資金）監査
- ②物品（ノートパソコン・タブレット等）実地監査

## 3 監査実施結果の概要

### ・科学研究費補助金監査（公的研究資金）監査

従来の無作為抽出に加え、本学の不正リスクに基づき抽出を行い、令和2年度に採択された科学研究費等の公的研究費の4割にあたる30件の研究課題を対象とし、公的研究資金の受入から執行、資産の管理状況等について監査を実施した。

なお、前述の30件のうち直接経費の支出において、（1）旅費の支出額が支出総額の70%以上又は100万円以上、並びに、（2）人件費・謝金の支出額が支出総額の50%以上又は30万円以上と高額な10件については特別監査項目として、それぞれの研究室において研究代表者から設備等の稼働状況、納品確認の体制及び出張の状況等についての聞き取り調査も実施した。

また、前述の30件以外に、1回に3万円を超える支給があった研究協力謝金6件の支給状況について、支給者に対する聞き取り調査を実施した。

### ・物品（ノートパソコン・タブレット等）実地監査

令和2年度に購入した高換金性物品（パソコン・タブレット等）のうち無作為に抽出した使用者全体の2割にあたる27件を対象として、対象物品の存否、使用状況等についての実地監査を実施した。

## 4 重要な発見事項

研究協力謝金の二重支給ではないかとの指摘について、業務従事者が業務当日に依頼者から作業確認が得られないと考え、勤務時間報告を実際の翌日としたことから書面上別業務との時間重複となってしまったことが判明した。今回は業務依頼者の確認行為が不十分であったことが要因と考えられるため、今後の業務改善策として書類の改善及びチェック体制をより強化することを学長に報告した。